

年間第22主日の説教

金 大烈 神父 2011年8月28日(日)

《私が背負えるだけの十字架 ～感謝しながら、気持よく負いましょう～》

今日の福音(マタイ 16・21 - 27)でイエス様は、「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」とおっしゃっています。

十字架というものは、大きさや重さに関係なく、つらいものです。ですから、“あの人の十字架より私の十字架のほうがもっとつらい”ということはありません。誰にとっても、十字架はできればはずして投げ捨てたいものです。十字架については、そのようないろいろな難しさを感じます。そして、皆様全員に、一人一人の十字架が与えられています。では、十字架についてどのように考えるのが正しいのでしょうか。

「主は、各自背負える程の十字架だけをお許しくくださいます。」

“重い、重い”と言っても、神様は誰よりも、私自身よりも、私のことをご存知です。その人が耐えられるくらいで、その人に一番ふさわしい、そしてもしその人が背負えれば約束された全てのものが与えられるだろう、と思われる重さの十字架を一人一人に与えてくださいます。ですから、「私にはこの十字架は背負えません。」などと言ってはいけません。

他の人に比べて重く見える十字架を負っている人がいます。しかし、それは神様がそのくらいその人を愛しているからかもしれません。また、全然重くないように見える十字架を背負っている人もいます。しかし、十字架というものは、大きさや重さとは全然関係ないのです。5kgの十字架を持っている人でも、50kgの十字架を持っている人でも、感じられる痛みは同じです。その人その人に合わせてくださった十字架なのだから、「この十字架を精いっぱい、気持よく、感謝しながら背負います。」というのが一番ふさわしい態度でしょう。

今日の言葉は簡単で短いです。しかし、深い意味を持っている言葉です。ですから、覚えてください。

もう一回読んでみましょう。

「主は、各自背負える程の十字架だけをお許しくくださいます。」

ありがとうございました。